



週報 パワー浜松ロータリークラブ

クルクルまわそうロータリー

RI 会長 ジェニファー・ジョーンズ/第 2620 地区ガバナー 浅原諒蔵 /会長 加藤ひとみ /幹事 高部光司
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第915回例会11月29日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：小林昭次 中野雄介
- 点鐘：加藤ひとみ
- 週報：高貝 亮
- ロータリーソング：「それこそロータリー」(※音楽のみ)
- ゲスト：米山記念奨学生 陳俊達さん

出席報告/スマイル報告

会員数 69名(内 出席免除会員 1名)
出席数 55名 出席率 80.88%

加藤会長・高部幹事
坂井光藏 会員

会長挨拶

皆さん、おはようございます。二週間も前になってしまいましたが、13日は補助金事業としてのこども食堂の開催に、ご協力ありがとうございました。あいにくの土砂降りでしたが、無事に終わることができました。皆様に感謝申し上げます。これから、コロナで休会が多かった年のパスト会長に代わりにお話をさせていただくことにしました。今日は直前会長の高貝さんをお願いします。

(代行挨拶)

本日は、加藤会長よりご指示をいただき、挨拶を代行させていただきます。お題については、私の考えるロータリークラブ、これからのクラブのあり方を話すようにいわれております。本年度、クラブ運営について考え方の異なる方々が新クラブを結成してクラブを出られるという出来事がありました。私も今が、これからのパワーについて考えるよい機会ではないかと思えます。

ロータリークラブは、もともとは寂しい経営者、職業人が親睦のためにつくったクラブだったといわれています。シカゴの青年弁護士、ポールハリスは、仕事を通じて知り合った数人の仲間を集め、地元の職業人から成るクラブを結成するという構想について話し合い、1905年、4人の仲間がシカゴ中心街にあった1人に事務所に集まり、世界初のロータリークラブ例会がはじまりました。やがてこの集まりは、慈善事業を推進するようになり、ロータリー財団の設立とともに、巨額の寄付金を集める慈善団体へと変貌を遂げていきました。力を集めて、世界のためによりよいことをする団体としてのロータリークラブにも魅力はありますが、私自身は、親睦をベースとした自己啓発の場としてのクラブのあり方により強い魅力を感じています。クラブで行う様々な事業は、自己啓発のための修練の場と考えています。様々な考え方がある中で、議論しながら、しかも楽しく奉仕を実践する、そうした実践を積み重ねて研鑽し、よりよき職業人になっていく、クラブはそんな場でありたいと考えています。事業のあり方にも様々な考え方があり、正しい事業というものがある訳ではありません。考え方の違う事業に対しても、あしざまに非難するのではなく、広い心で受け止め、理解する努力をすべきではないかと考えます。事業の意義については、なかなか表面からだけではわかりにくいところがあります。

先日、11月13日、グレースガーデンさんでこども食堂の開催がありました。また、当日の開催に先立ち、はままつ子供の学習教室へお弁当配達を行うこともされました。このお弁当配達、就労支援事業所への発注という意味は理解できたのですが、1食ぐらいお弁当を配達することにどんな意味があるのだろうと、最初に事業計画を聞いたときにはちょっと疑問に感じたのも事実でした。しかし、その後、熊谷さんたちからお話をうかがい、仕事に追われ子供とゆっくり話をする時間もとれない家庭において、この1食のおかげでゆっくり家族で話ができる時間を持つことができるのだ、という説明を聞いて、なるほどと感じました。心のこもった事業であることがようやく理解できたのです。またこの事業は、クラブ外の多くの関係者が関与する事業だったところ、安間さんや松島さんが様々な調整や事務作業を含め、汗を流してくださいました。このように、中心になって心をくわいて考えてくださるメンバーのもとに多くのメンバーが集まり、力を発揮して事業を実施していく形は、パワーのよいところであり、パワーらしい事業だったと思います。



幹事報告

- ①第5回理事会 例会後 メイフェアの間
- 【出席義務者】

役員理事、理事(委員長・小委員長)、副幹事総務、前年度幹事、1月度 担当例会議案提出者(代理でも可)、親睦小委員会、公共イメージ委員会、社会奉仕部会会員維持増強・クラブ研修委員会

②出席義務規定の免除

会員が一つまたは複数のロータリークラブの会員歴(MYROTARY で確認)と会員の年齢の合計が85年以上であり、少なくとも20年のロータリアン歴があり、出席規定の適用を免除されたい希望を、書面をもってクラブ幹事に通告した場合、会員は出席規定の免除を受けることができる。例) 会員歴 20年 + 65歳 = 85

※ パワー浜松RCのRI 認証日 2002/11/27 がチャーターメンバーの入会日となります

③天竜浜名湖鉄道(株) 地域連携センター長 伊藤文俊(いとう ふみとし)様

気賀駅の除草作業ありがとうございました。

来春には水仙・菜の花・桜がとともきれいに咲きますので天浜線にのってご覧ください。



委員会報告

■親睦小委員会 青山さん

12月10日クリスマス忘年会です。

■第2回青空例会 鈴木亮さん

12月18日菊川カントリーで青空例会です。夜の部も開催しますのであわせてお願いします。

■ハッピーバースデー (親睦委員会)

中野雄介さん、伊藤勝人さん、金山土洲さん、村木則予さん、中野雅一さん、森俊彦さん



議事

パワー戦略ミーティング報告

Aチーム 「教育」 発表骨子

教育の話しあいのメンバー紹介。その後、登壇した堀内会員が司会をして進行しました。村井会員と松島会員がなぜ、教育グループに手を挙げたのか、自身の教育との関りを自らの活動を踏まえて発表しました。最後に、堀内会員より、教育という幅広いテーマを再度、今まで行ってきた活動を見直しも必要である。そして、メンバーの誰もがいう継続についても検討をしていきたいとして発表を締めくくりました。

Bチーム 「子供の貧困」

一般社団法人 HOT プロジェクト理事でもあるコデラ新聞の取締役専務小寺泰之さんのご紹介で NPO 法人サステナブルネット理事長渡邊修一さんが実施している「子ども食堂」を見学しました。発足当時 15 名いた協力者も現在では 5 名ほどになりボランティアの増員も課題の一つで企業による支援も少ないそうです。継続支援ということが大事で、「1 回だけ手伝いに来て支援しました」では正直なところあまり支援となっていないと話されていました。小寺さんの会社では、自社の配達範囲の中、家庭で使わない食材を提供して下さる方のところへ集配に行っているそうです。自分が思っているより沢山の子どもたちが「子ども食堂」を利用しているということ、その子どもたちは全てが母子家庭だということ、集めた食材を集めて仕分けしてその家庭に配っているということ、色々なことに驚きました。今後、当クラブでも紹介者であるコデラ新聞の小寺泰之さんに卓話をお願いして、そこから掘下げていきたいと考えています。

Cチーム 「健康・高齢化」

「認知症」に対してはすでに起こっている問題に対する支援活動となり、「健康」に対しては患わないための防止活動となります。共に有意義な活動ではありますが、すでに起こっている問題に取り組むには専門性が必要であり、長期的な取り組みが求められます。なおかつ後発の者として特徴ある活動を打ち出しにくいという点を懸念いたしました。一方「健康」については高い専門性は不要で、参加者の年齢や状態・規模により柔軟に活動内容を変えることが可能であり、パワー浜松 RC としての取組はこちらが向いているとの結論にいたりました。

そこで C チームは「健康に歳をとり若い人の世話にならないようにするためにはどうするか？」をテーマに掲げ「健康でいるための予防策」を踏まえた活動施策を考えることにしました。

健康でいるための予防策として適切な食事や運動が挙げられますが、さらに「孤独にならない事」も重要なことであると認識しました。居場所の創造、仲間との情報交換の場の提供、喫茶店のサロン化などは私たちでもできそうなことでありますし、メンバーの服部さんが以前所属していた RC では「デニーズ会」という集まりがあり盛況だったとの話も伺いました。

これらを背景にパワー浜松 RC での活動案として

アクト階段ウォーク/ゴミ拾いウォーク/ゴミ拾いを佐鳴湖の葦刈りに変えた活動/認知症防止メニューの開発/お酒との健康的な付き合い方の研究

などの施策を考えてみました。今回「健康・高齢化」について議論することにより「健康に歳を重ねること」は大変貴重でありたいことであると気づきました。クラブの活動として何か貢献ができるといいなと感じました。

